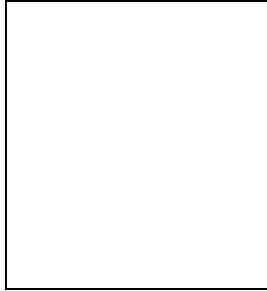


▽ 澤田 佳世 教授 SAWADA, KAYO



所 属: 総合文化学部 社会文化学科

担当科目:

【学部】 社会学概論、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、ジェンダー論、
沖縄社会入門、領域演習(社会・平和)、実習、
演習Ⅰ(3年ゼミ)、演習Ⅱ(4年ゼミ)、卒業論文

【大学院】 家族社会学特論Ⅰ・Ⅱ、特殊研究Ⅰ・Ⅱ(論文指導)

学歴等のプロフィール

【主要学歴】

- ✓ 津田塾大学大学院国際関係学研究科 後期博士課程単位取得退学
- ✓ オーストラリア国立大学大学院人口学研究科 修士課程修了
- ✓ 東京女子大学大学院現代文化研究科 修士課程修了
- ✓ 津田塾大学学芸学部国際関係学科 卒業

【学位】

- ✓ 博士〔国際関係学、津田塾大学〕
- ✓ 修士〔人口研究、オーストラリア国立大学〕、修士〔学術、東京女子大学〕

【所属学会】

日本人口学会、日本社会学会、日本家族社会学会、国際ジェンダー学会、人口学研究会

研究分野

人口社会学、ジェンダー研究

受賞歴

- 日本人口学会・第15回学会賞 (澤田佳世,2014,『戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス——米軍統治下の出生力転換と女たちの交渉』大月書店)(2016年)
- 第9回女性史学賞 (澤田佳世,2014,『戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス——米軍統治下の出生力転換と女たちの交渉』大月書店)(2015年)
- Association for Asian Studies “F. Hilary Conroy Prize” (パネル“Comparative Studies on Family Planning in Late Twentieth-Century Asia: Politics of Reproductive Health and Rights”受賞: 組織者・小浜正子・日本大学・教授)(2012年)
- 城西国際大学ジェンダー・女性学研究所第1回環太平洋女性学研究奨励賞 (2002年)

研究業績等

【主要著書】

- 『アジアの出産と家族計画——「産む・産まない・産めない」身体をめぐる政治』(共著／小浜正子・松岡悦子編,勉誠出版,2014)
- 『戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス——米軍統治下の出生力転換と女たちの交渉』(単著／大月書店,2014)
- 『現代人口辞典』(共著／人口学研究会編,原書房,2010)
- 『国際移動とく連鎖するジェンダー——再生産領域のグローバル化』(共著／伊藤るり・足立真理子編,作品社,2008)
- 『子ども白書 2006——子どもを大切にす国・しない国 Part2: 人口減少時代の未来をひらく想像力』(共著／日本子どもを守る会編,草土文化,2006)
- 『ジェンダーと交差する健康/身体——健康とジェンダーⅢ』(共著／根村直美編,明石書店,2005)

【主要論文】

- 澤田佳世,2017,「出生力と家族にみる沖縄——周辺化された人口・生殖をめぐる政治」,『社会学評論』67(4): 400-414.
- SAWADA, Kayo,2016,“Cold War Geopolitics of Population and Reproduction in Okinawa under US Military Occupation, 1945–1972,” *East Asian Science, Technology and Society (EASTS)*,10(4).
- 澤田佳世,2015,「沖縄の高出生率は少子化対策のモデルになるか——リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から」,『統計』2015年11月号:30-36.
- 澤田佳世,2013,「〈震災と原発〉を沖縄で/沖縄から社会的に調査する——沖縄国際大学社会文化学科・社会学ゼミの調査実習」『社会と調査』,11:126-130.
- 澤田佳世,2012,「日米支配と沖縄のリプロダクティブ・ライツ」,『女たちの21世紀』71: 30-34.
- SAWADA, Kayo, 2011, “The ‘Masculinization’ of Fertility and International Marriages: The Reproductive Chain and its Gendered Implications in Taiwan,” 『沖縄国際大学社会文化研究』,12(2): 1-19.
- 澤田佳世,2011,「家族の越境的再生産と国民の再生産——韓国の「少子化」、国際結婚、家族の法制度をめぐるジェンダー・ポリティクス」『地域文化論叢』13: 1-20.
- 澤田佳世,2008,「米軍統治と家族計画——戦後沖縄における生殖をめぐる交渉」『沖縄国際大学社会文化研究』,11(1): 1-22.
- 小ヶ谷千穂・澤田佳世,2007,「東アジアですすむ再生産労働の国際分業——女性の国際移動から見るグローバル化時代の家族の諸相」『女たちの21世紀』49: 21-23.
- 澤田佳世,2007,「香港における『超少子化』と再生産労働の国際移転——グローバル化する高齢社会の諸相」,『香港における再生産労働の国際移転とジェンダー配置』(お茶の水女子大学 21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」)F-GENS Publication Series 23: 14-34.
- 澤田佳世,2005,「米軍統治下沖縄の出生力とその抑制手段の転換」『人口学研究』第36号: 23-40.
- 澤田佳世,2005,「米軍統治下沖縄の助産婦による避妊普及活動とその変容——『リプロダクティブ・ヘルス／ライツ』の萌芽から『家族計画』へ」『ジェンダー研究』第8号: 55-78.
- 澤田佳世,2003,「米軍統治下沖縄の出生力転換と生殖の政治学——優生保護法の『廃止』と助産婦の交渉」『女性学年報』第24号: 61 - 80.

- 澤田佳世,2001,「現代沖縄社会の出生力——ジェンダーの視点による説明要因の検討に向けて」津田塾大学『国際関係学研究』第 27 号: 91 - 111.

【外部資金獲得実績】

- 文部科学省科学研究費
 - ✓ 2016年4月-現在: 科学研究費補助金(基盤研究C)・個人研究「沖縄の人口と生殖する身体をめぐるポリティクス—冷戦の地政学とジェンダーの視点から」
 - ✓ 2013年度: 研究成果公開促進費(学術図書)「戦後沖縄の生殖をめぐるポリティクス」
 - ✓ 2012年4月-2016年3月: 科学研究費補助金(若手研究B)・個人研究「沖縄の国際結婚とジェンダー再配置——越境する家族と移住女性の主体形成・権利保障」
 - ✓ 2009年4月-2012年3月: 科学研究費補助金(若手研究B)・個人研究「現代沖縄の出生力と国際結婚の諸相——多良間村にみる家族と移住女性の再生産戦略」
 - ✓ 2005年4月-2009年3月: 基礎研究A・共同研究「アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置」(研究代表者:お茶の水女子大学ジェンダー研究センター・教授・伊藤るり) 研究分担者
 - ✓ 2004年4月-2007年3月: 科学研究費補助金(特別研究員奨励費・PD)・個人研究「戦後沖縄の出生力転換と女性たちの交渉——出生力要因のジェンダー分析にむけて」
- その他の研究助成金
 - ✓ トヨタ財団研究助成(2002年)
 - ✓ 松下国際財団研究助成(2002年)
 - ✓ 東京女子大学女性学研究所「秋枝蕭子学生奨励金」(1999年)

教育活動等

| 主な教育活動 | 年月日 | 摘要 |
|----------------------------------|--|---|
| 1. 教育活動・方法の実践例 ●学部 1)社会学概論 | 2015年4月- (旧カリキュラム 「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」2007年4月-14 年3月) | ・総合文化学部社会文化学科 必修科目 ・講義内容:社会学の基本的な概念や思考枠組を学び、「人間」と「社会」との関係性を様々な角度から検証する社会学の基礎科目です。自己・相互行為・社会、秩序・権力、組織、メディアとコミュニケーション、社会階層、労働と教育、グローバリゼーションと国民国家、エスニシティ、ジェンダー、家族、人口変動、文化、社会運動等を各回のテーマに、他者理解を通じ人間社会の問題群とその現代的課題を考察します。リアクションペーパーの提出に加え、学生への問いかけを随所に盛り込み、双方向的な授業を展開しています。 ・登録者数:約100-120人 |
| 2)沖縄社会入門 | 2015年4月- | ・総合文化学部社会文化学科 必修科目 |

| | | |
|--------------|--|---|
| | | <p>・講義内容:今日の沖縄社会が直面している様々な課題に目を向け、その背景にある構造的な問題について考察します。各回のテーマとして、笑い、アイデンティティ、イメージ、人口・家族、女性・子ども、教育・労働、移民等を取りあげ、沖縄を思考するために必要とされる基本的な問題意識を習得します。テーマに関する身近な経験をリアクションペーパーに記入してもらい、教員が整理・体系化して紹介、映像資料も使いながらアクティブラーニングを試行しています。</p> <p>・登録者数:約 100-120 人</p> |
| 3)社会調査法 I・II | 2007 年 4 月- | <p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目 (社会調査士資格認定科目 A・B)</p> <p>・講義内容:社会調査の初歩・基礎を習得するために、社会調査の意義や目的、歴史、基本ルール、調査の種類と実例、情報資源の発掘方法、調査倫理等を学びます。前期は文献探索、聞き取り調査とライフストーリー研究、ドキュメント分析など質的調査、後期は調査票調査など量的調査を中心に、グループワークやプレゼンを含む学生による実践的作業を実施しています。</p> <p>・登録者数:約 60 人</p> |
| 4)ジェンダー論 | 2016 年 4 月- | <p>・総合文化学部社会文化学科 選択科目</p> <p>・〈女／男である〉ことは、どのような社会的意味をもち、近代社会は〈性別〉によってどのように分割されてきたのか。〈女性／男性〉はどのような権力関係と社会状況を生きているのか。〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、結婚・家族、人口・身体、移動・グローバル化、国家・人権など、ジェンダーの視点から社会の仕組みと現代的課題を考察します。学生のリアクションペーパーを教員が体系化して紹介、映像資料も使いながらアクティブラーニングを試行しています。</p> <p>・受講者数:約 60 人</p> |
| 5)領域演習 | 2015 年 4 月- (旧カリ「基礎演習・実習」2007 年 4 月-13 年 3 月) | <p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目</p> <p>・講義内容:社会(科)学の基本的な考え方と知識を習得し、研究報告の仕方、問いの立て方と論じ方を身につけます。社会学の入門的文献(人口・家族/教育・労働)を輪読・討論を行いながら、関連する映画や演劇、資料館や博物館、NGO や NPO を訪問し実践的理解を</p> |

| | | |
|------------------------------|--|---|
| <p>6)演習Ⅰ・実習</p> | <p>2016年4月- (旧カリ「演習」 2007年4月-15年 3月)</p> | <p>深めます。受講生の知的交流と他者・社会への関心、取材・プレゼン能力、本を読み伝える力を鼓舞するため、自己紹介のほかに「他己紹介」、「ビブリオ・バトル」も実施しています。プレゼンを多角的に評価するフィードバックシートを作成、学生が記入し報告担当者に提出、学生相互の学び合いを深めています。</p> <p>・受講者数：約 25-30 人</p> <p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目 (社会調査士資格認定科目 G)</p> <p>・講義内容：社会現象としての人口と家族の変動、教育と労働をめぐる現代的課題を中心テーマに、ジェンダー・社会階層・エスニシティといった分析軸をすえ、国際比較・比較社会的観点からその変動と課題を実証的・論理的に分析していきます。社会学に関する専門的な文献の輪読・討論を行いながら、ゼミの共通テーマを調査実習で探究し報告書を作成します。調査実習ではこれまで、沖縄の家族、文化・言語、エスニック・アイデンティティ、平和、大阪のウチナーンチュ及び震災・原発などを共通テーマにフィールドワークを実施してきました。2017 年度からは、若者のキャリア形成と家族形成をテーマに、調査票調査を実施、報告書を作成する予定です。フィードバックシートも活用しています。</p> <p>・受講者数：約 15 人</p> |
| <p>7)演習Ⅱ・卒業論文</p> | <p>2017年4月- (旧カリ「卒業論文 指導演習」2007年 4月-16年3月)</p> | <p>・総合文化学部社会文化学科 必修科目</p> <p>・講義内容：演習Ⅰにおける社会学(人口・家族/教育・労働)の学びを継承しながら、学生各自の関心にもとづいて研究テーマを設定し、主体的に調査・分析を実施、先行研究の知見にも目を配りながら、論理的・実証的記述により、卒業論文作成を行うことを目指します。卒論の書き方のレクチャーから研究経過報告とゼミ生間の議論を重ね、卒業論文を提出、卒論発表会での口頭報告までを丁寧に指導しています。研究報告ではフィードバックシートも活用しています。</p> <p>・受講者数：約 15 人</p> |
| <p>●大学院 1)家族社会学特論Ⅰ・Ⅱ</p> | <p>2007年4月-</p> | <p>・地域文化研究科南島文化専攻社会文化領域 (Ⅰは専門社会調査士資格認定科目)</p> <p>・講義内容：人口・家族の社会学とジェンダー研究の基</p> |

| | | |
|---------------------------------|--|---|
| | | <p>礎から発展的理解を目指す演習です。特論Ⅰでは人口・家族社会学とジェンダー研究の基礎的文献を事例に質的調査の方法を学び、特論Ⅱでは人口・家族・移動という社会現象をジェンダーの視点から分析した文献を中心に輪読・討論を行っています。</p> <p>・受講者数: 約 1~3 人</p> |
| <p>2) 特殊研究Ⅰ・Ⅱ 論文指導</p> | <p>2007 年 4 月 - (特殊研究は 2015 年 4 月 -)</p> | <p>・地域文化研究科南島文化専攻社会文化領域</p> <p>・講義内容: 特殊研究Ⅰでは、社会現象としての人口・家族の変動を主なテーマとし、社会科学の学術論文を執筆するための基礎的な作業方法を学びながら、①研究テーマの設定、②先行研究の整理・検討、③研究の目的・意義の検討、④調査研究方法の検討を行います。特殊研究Ⅰでの成果を引きつぎながら、各自の研究テーマについて、①研究史上での位置づけ・意義・独自性の確認、②論文全体構成の確定、③中間発表、④草稿の逐次提出と推敲を経て、修士論文を完成させます。</p> <p>・受講者数: 約 1~3 人</p> <p>・論文指導: 修士課程 累計 5 人 (-2016 年度末までに)</p> <p>・論文審査: 修士課程 累計 8 人 (同上)</p> |
| <p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> | | <p>・人口学研究会編, 2010『現代人口辞典』原書房(「家族計画」「家族計画プログラム」「セクシュアリティ」「母体保護法」「優生保護法」の項目を執筆。人口学・人口研究の基本用語と重要概念を説明した辞典)</p> <p>・有森裕子・国連人口基金東京事務所(執筆協力者: 澤田佳世), 2004,『有森裕子と読む人口問題ガイドブック——知っておきたい世界のこと、からだのこと』国際開発ジャーナル社(世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する基礎的教材)</p> |
| <p>3. 学生支援活動</p> <p>1) 学習支援</p> | <p>2007 年 4 月 -</p> | <p>・オフィスアワー: 木曜 4 校時をオフィスアワーに設定、学生相談・指導にあてています。必要に応じ、それ以外の時間帯にも学生の学習支援・国内外留学支援・キャリア支援に取り組んでいます。</p> |
| <p>2) 国内・国外留学支援</p> | <p>2007 年 4 月 -</p> | <p>・同上。毎年、1~2 名のゼミ生が国内・国外協定校制度ないし私費で留学しています。留学先は、韓国、フィリピン、フランス、東京、京都、北海道などです。国際交</p> |

| | | |
|------------------|-----------------------------------|--|
| 3) キャリア支援 | 2007年4月- | <p>流委員として、2009年度にはオーストラリアのマッコリー大学の文化交流プログラム参加学生の引率を行いました。</p> <p>・同上。毎年、数名のゼミ生が、本学のインターンシップ制度を利用し、夏期休暇を中心に就労体験を積んでいます。</p> |
| 4) 入学前オリエンテーション | 2007年4月- | <p>・AO・推薦入試合格者に対する入学前オリエンテーションにおいて、課題図書の説明と討論、新聞切り抜きの意義と説明および中間報告の指導を行っています。</p> |
| 5) 学年指導委員 | 2008年4月- | <p>・所属学科の学年指導委員(3年、うち2年間は4年)として、前期・後期オリエンテーションでの学生支援・履修指導などを行っています。</p> |
| 6) サークル・部活動 | 2008年4月-12年3月 | <p>・琉球風車(エイサー団体)の顧問・副顧問。大阪市大正区のエイサーまつりへの遠征、台湾・東海大学への海外遠征を引率しました。</p> |
| 4. 教育改善活動(FD など) | | |
| 1) 授業評価アンケート | 2007年4月- | <p>・毎学期、担当する講義・演習で「授業評価アンケート」を実施、その結果を講義・演習内容の改善などに役立てています。</p> |
| 2) リアクションペーパーの活用 | 2007年4月- | <p>大学が義務付ける「授業評価アンケート」とは別に、担当する講義・演習で、リアクションペーパーを(コメント・質問・要望欄)を配布し、受講生の理解度チェック、問題関心と経験、講義手法の改善に役立てています。同時に、重要な問題意識や考察については、授業で紹介し、学生相互の学び合いとアクティブラーニングの試行に活用しています。</p> |
| 3) フィードバックシートの活用 | 2015年4月- | <p>・演習科目では、学生の研究報告の技術・内容の向上をめざし、学生が記入して報告者に提出するフィードバックシートを活用しています。プレゼンの技術の多角的評価、内容の評価、良かった点・改善すべき点、お薦めの図書・論文などの欄を設け、学生相互に学び合う姿勢とアクティブラーニングの試行に活用しています。</p> |
| 4) その他、教育改善活動 | <p>・演習・実習科目では、合同ゼミ・実習を介して、他大学</p> | |

| | | |
|--|--------------|---|
| | 2007 年 4 月 - | <p>(一橋大学や和光大学など)との知的交流を行ってきました。課外実習で地域との交流も行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習・実習科目では、SA・TA 制度を活用し、授業内容の改善に努めるとともに、先輩・後輩間の学び合い・教え合いを鼓舞しています。 ・演習・実習科目では、新ゼミ生の歓迎会や合宿、卒論発表会や 4 年生歓送会などを課外活動として取り入れ、異学年交流のための機会を設けています。 |
|--|--------------|---|

【E メール・ホームページ等】

詳細は「[新世代研究基盤リサーチマップ researchmap](#)」をご参照下さい。

平成 29 年 4 月 13 日現在